

SSKP 船橋障害者自立生活センター

2016年1月

うえいぶニュース

79

〒273-0005 船橋市本町2-4-4 花島ビル1F TEL: 047-432-4554 / FAX: 047-432-4565
URL: <http://www.cil-funabashi.org/> E-Mail: cil-funabashi@cil-funabashi.org

巻頭言

新しい年を迎えて

明けましておめでとうございます。と言っても、この機関紙が皆さんのお手元に届く頃には、お正月気分もすっかり抜けて、普段の生活に戻っているものと思います。

昨年、私達の自立生活センターでは、従来に無かった幾つかの活動を実施しました。一つは、ピア・カウンセリングに関するもので、今も続いている連続公開講座と出張ピア・カン、それに三十数名が参加したバス旅行や、二次障害についての医療講演会などです。

医療講演会には、遠く広島や名古屋からも参加者があり、二次障害についての関心の拡がりや問題の根深さを感じました。

これらの活動が、曲がりなりにも実現できたことは、福祉作業所のスタッフや利用者を含めた若い障害者の力があつたからだと思います。勿論、障害の無い人達の協力も大きな力ですが、やはり、障害者自身が積極的に活動に参加することが重要であるのは間違いありません。

考えてみれば、25年近い活動を続けているわけですから、本来であればもう少し早く、この様な状況を作らなければいけなかったと思います。いずれにしても、こうした若い力が出てきたことは嬉しいことで、大切にしなければいけないと考えています。

折しも、今年は障害者差別解消法がいよいよ施行され、また、障害福祉サービスと介護保険の兼ね合いを中心とする高齢障害者の問題を含めた総合支援法の見直しについての議論が山場を迎えるなど、大きな変化が予想されます。その意味では、中央でも地域でも、運動課題がたくさんあると言えると思います。

私達としては、そうした動きにも目を配りながら、自らの当面の課題である組織の立て直しや若返りに力を入れていきたいと考えています。

様々な紆余曲折を経験しながら、多くの皆さんの協力の下に続いてきた小さな組織の活動が、これからも継続できるかどうかは、ひとえに若い力を結集できるかどうかにかかっていると思います。思い切った組織改革を成し遂げる為に、ずっと活動を続けてきた人達と若い力が合わさっていかねばならないと思います。

これから自立を目指す若い人達が社会に何を求めるのか、彼らの奮起に期待したいと思います。

イベント報告

巻頭言でも少し触れましたが、当センターでは今年度、従来にはなかったイベントをいくつか実施しました。現在も進行中のものもありますが、取り敢えず経過報告させていただきます。

10月23日・24日

ふなばし福祉フェスティバル in イオンモール船橋

市内の障がい者福祉・高齢者福祉と医療関係者の交流を目的としている「ふなばし福祉フェスティバル in イオンモール船橋」に今年も参加しました。

今年は参加団体60団体以上による出店や、障がい者団体による頒布会、高齢者施設によるパネルの展示、リハビリやケアプラン、医療に関する相談コーナーと多様なアプローチで船橋の福祉を市民にアピールし、特設ステージではライブ演奏などで参加者とお客様を楽しませておりました。

私どもの店では、作業所の利用者たちの手作り品のカレンダー・皮の小物・雑貨などを売っており、皮の小物はすぐに売れていき、大人気でした。似顔絵の作成も盛況で、他にも相談コーナーも設けていました。



11月10日

楽しかったバス旅行

自立生活センターとしては、初めての試みとして日帰りのバス旅行を11月10日に実施しました。当日は、船橋市障害福祉課の佐藤課長のお見送りを受け、社会福祉協議会のリフトバス貸出制度を利用して、大型バスを使って山梨県の笛吹市へ向かいました。どんよりとした曇り空でしたが、現地に着くと勇壮な和太鼓の演奏が始まっていて、それを聞きながら名物の「ほうとう」をみんなで堪能しました。お腹が一杯になったところで、特産のブドウを使ったワインを作る工場を見学し、試飲する人やお土産に買って帰る人もいて、思い思いに楽しい時間を過ごしました。帰りの車中でもゲーム大会などがあり、30数名の参加者は市役所前でまた佐藤課長のお出迎えを頂いて無事に帰着して、盛沢山の一日に満足した様子で家路につきました。今後もこの種のイベントを計画したいと思っておりますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

イベント報告

2015年11月21日

医療講演会「どう防ぐ？ どう治す？ 二次障害」

脳性マヒを中心とする二次障害は、対応を誤ると寝たきりになる等、その後の生活に大きな影響を与えます。そのような問題を考える講演会を11月21日に、中央公民館で開催しました。講師は横浜南共済病院整形外科部長の三原久範先生でした。当日はスタッフも含めて約50人の参加があり、脳性マヒの障害の仕組みから説き起こしてくださった先生のお話、一同聞き入っていました。巻頭言にも触れましたが、遠方からの参加者も何人かいて、講演後の質疑応答や会議終了後の懇談の時にも、活発な質問が相次いで、問題の深刻さと医療の体制の不十分な状態が浮き彫りになりました。



2015年12月5・6日
障害者作品展



2015年も船橋市主催の障害者作品展に「福祉作業所 WAVE」として参加しました。

日時・場所は12月5・6日の二日間で船橋市中央公民館にて開催。

展示した物は、パソコンでデザインした絵・新年に向けての詩・手書きの似顔絵・カレンダー・小物。

パソコンでデザインした絵・手書きの似顔絵は非常に繊細なタッチの作品。見てくれた方は、とても興味深くご覧になっており、「どうやって作ったの？すごいね〜！」等、沢山のご感想を頂戴しました。

新年に向けての詩を読んでもらった方々は、しばらく立ち止まって、感慨深げに読んでいる様子が見受けられ、印象的でした。

カレンダー・小物は見やすく、機能性に優れたデザインなので、関心深く見ていただきました。



代表のぼやき・・・

～ クルマも怖いよ ～



以前のこの欄で、電動車椅子で街を走る時に、前後左右から疾走してくる自転車の恐怖を書きました。

「貴方がルールを守れば、ルールが貴方を守ります」、昔々の大昔、私が中学生の頃に数学の先生が口癖にしていた言葉です。つまり、数学の公式などと交通ルールを掛けた形で、規則を守ることの重要性を説いたものだと思います。

私が普段、自転車の恐怖を感じるが多かったのは、自動車に比べてルールが曖昧で、徹底されないことに原因があると思います、それに比べて、自動車のドライバーは一定のルールを守って運転しているから、こちら側もルールに従って走っていれば、ある程度の安全は守られるものと思い込んでいました。

前号の総会報告についての記事の中で一部触れましたが、昨年6月、私は横断歩道を青信号で横断している時に、右方向から来た乗用車に接触というよりは、撥ねられた感じでぶつけられてそのまま横転してしまいました。夜9時近い時間で、暗かったとはいえ、半世紀前の数学の先生の言葉通りに交通法規に従って横断していた時でした。

結果的に肋骨を三本骨折し、赤い愛車が見るも無残な姿になってしまいました。上に描いた通り、横断歩道の端で信号が青になるのを確認してから渡り始めた時の出来事だったので、一瞬何が何だか分かりませんでした。その時、私は自宅近くのコンビニで買い物をして家に帰る途中でした。同じ時刻にコンビニにいた人達が助け起こして下さって、救急車の手配などをしてくれました。

その晩は、横転した車椅子の下敷きになった腕や額の治療と、念のためということで、頭のCTと胸のレントゲンを撮って深夜11時半に帰宅しました。翌日から、吐き気が出たり、微熱が出たりといった主に精神的なショックが原因と思われる症状が続き、毎日の様にヘルパーK君と病院通いが続きました。一番長く続いた症状は、脇腹の痛みです。一時は、呼吸をしても痛いほどでしたが、何度となくそれを訴えても、病院側はきちんとした検査を怠り、正式に肋骨の骨折が判明したのは事故から3週間目のことでした。

電動車椅子に乗り始めて40年目にして初めての事故であり、この半年間は戸惑うことの多い時期でした。私からすれば、加害者にあたる人の対応や、保険会社のズサンな処理もあり、いわゆる示談交渉は現在も続いています。

加害者が乗っていた車と同じシルバーの車を見かけただけで、今でも恐怖を感じます。何しろ、ぶつかった瞬間は死を覚悟したのですから。結局、ルールは私を守ってはくれませんでした。あの晩の事故に限らず、その後の問題の流れの中において、つくづくそう思います。世の中には、色々なルールがあります。その一つ一つを疑ってかかる必要もありそうです。特に障害をもって生きてきた身には、それを痛切に感じさせられた出来事でした。



将太のぼやき・・・

～ バスの乗車拒否 ～

障害者のみなさん、公共交通機関を使うときに乗車拒否をされたことはありませんか？

これは、自分が実際にバスに乗るときに乗車を拒否された時の話です。初めてバスの乗車拒否をされたのは、今から3年前の出来事です。高校の冬のときに寄宿舎から一人で家まで帰ろうとした時です。船橋駅のバスロータリーでバスを待っていました。バスが来たので運転手さんに、行き先の停留所までお願いします、と伝えたところ、バスの運転手さんから、「お客さんがいっぱい乗っているので次のバスに乗ってください」と言われました。その時、自分は大激怒をしましたが、いっこうに乗せてくれる気配も感じられず、他のお客さんの迷惑にもなってしまうので、あきらめて次のバスに乗ることにしました。次のバスは、すぐに対応をしていただくことができました。でも、バスを1つ逃したので家に30分遅れで到着しました。すぐにこの話を家族に報告しました。家族も大激怒。すぐにバス会社に電話をかけました。バス会社さんもその時は、しっかりと指導をします、と返答が返ってきましたが、月日が流れ、2015年12月1日に職場から帰ろうとした時、同じ船橋駅でバスを待っていました。バスも10分遅れで来ました。ヘルパーさんがバスに乗り、運転手さんに乗車依頼をしてもらいましたが、ヘルパーさんがバスを降りて、船橋駅のバスの案内所の方に向かっていき、そのままバスは出発してしまいました。ヘルパーさんに、どうしたのと話を聞いたところ乗車拒否をされたと聞き、またかよ！と思いました。今度は、大事にするために、船橋市の障害福祉課に言いました。障害福祉課の職員さんにすぐに対応をしていただきました。これで2度目の出来事です。ただあやまるだけなら誰でもできます。障害者のために変わってくれなくては、意味がありません。皆さんもこういう経験があるのであれば、周りの大人に話してみても、いかがでしょうか？何か自分のためにも障害者の人たちのためにもなると思いますよ。



年頭にあたって～責任ある当事者力 船橋から発信～

小林健一

障害者差別解消法は、いよいよ2016年4月から施行となります。障害のある人もない人も共に生きる社会を目指して作られました。障害があるという理由だけで障害のない人と違う不当な差別的扱いをなくすることを目的としています。「合理的配慮をしないこと」も差別となります。

聴覚障害のある人に声だけで話す、視覚障害のある人に書類を渡すだけで読みあげない、知的障害のある人にわかりやすく説明しないことは、障害のない人にはきちんと情報を伝えているのに、障害のある人には情報を伝えないこととなります。

障害のある人が困っている時にその人の障害に合った必要な工夫ややり方を相手に伝えて、それを相手にしてもらうことを合理的配慮といいます。障害者差別解消法では、役所や会社・お店などが、障害のある人に「合理的配慮をしない」ことも差別となります。

この法律では「不当な差別的取り扱い」と「合理的配慮をしない」が2つの差別として禁止されています。しかし、法律があったとして、多様な人間がいて多様な価値観があるのだから、差別的取り扱いも合理的配慮も一言では言えません。自分で差別だと認識するか否か、どの程度が過重の負担とならず合理的配慮なのか難しい。実態としては不透明なところが多いと思います。事実この差別解消法という解消という言葉の裏には、差別があった。そしてこれからも差別はあり続けるだろうという視点に立ってみると、障害のある人の事を理解してもらう努力が必要です。旅行などを通して社会の中に障害のある人がいっぱい出ていくことや、障害のある人が健常者と共にできることを気軽にやり合える関係も大切だと思います。ナチュラルに介助し合う関係を作り上げる中で、いろいろな関係を超越して真のインクルージョンが実現できると確信しています。

そう考えたどり着くのは、障害者自身のエンパワーメントなくして、差別の解消はありえません。法律が施行されるというのはスタートラインに立ったにすぎません。ピア・カウンセリング等を通して多くの人に障害当事者の意見を届けることが杉井さんを中心とした当センターの使命だと考えます。連続公開講座という形にして健常者と言われる人たちも入りやすくなりました。僕の考えでは常に健康な者などいるわけがない。今、健常者と言われている人達も、ゆくゆくはいろんな場面で分かり合える仲間となりうるでしょう。ピア・コミュニケーションがもっと必要だと思います。

計画相談をやる中で色々な障害のある方と出会い、出かけて楽しみたいという人が多数いることを痛感しました。そこで、昨年はバス旅行を企画し実行しました。今年も是非多くの人が楽しめる企画を考えたいです。

自分は自分のできることをできる範囲でやれば良いと思っています。障害者、健常者関係なく、上下関係なく。自分としてできることは何なのか。どうすればできるのか。周りの人に自信をつけてもらった分、自分も周りの人に自信をつけてあげたい。色んな人の意見を真摯に受け止めながら、後戻りすることなく一步一步着実に周りのスタッフと協力しながらいい方向に飛躍できるよう精進してまいります。

理想の実現のため、やれることには限りがありますが、責任を持って行動し役割を遂行していく所存でございます。その為には多くの方々の参加と協力が必要です。船橋障害者自立生活センターは事業の一部を一般社団法人に移行します。その関係でセンターとしては、各種相談業務、ピア・カウンセリング、および啓蒙啓発、並びにバリアフリーに関する事業等々に力を入れてまいります。多くの福祉団体並びに行政のご協力が不可欠でございます。僕は法律の制定はスタートラインだと思います。それに法律というのは国レベルの大きな部分で作用します。これからも今までやってきた地道な活動、ピア・カウンセリング、相談支援、福祉教育と船橋に障害者主体の集える場所があるというぶれない信念でこれからも船橋の当事者発で、地域でこれまで以上に喜ばれる存在になりたい。そして法律を解釈するのは、人間で当事者であるという視点からすれば、差別解消法を読み込み生活者の視点から地域に喜ばれ、信頼される法律にブラッシュアップできるよう微力ながらセンターとしてもご協力させていただければと思います。

今後とも皆さんとセンターと理想の実現に向けて一步一步、歩いてまいりましょう

ピアサポ案内

ピアカン連続講座

これも初めての企画ですが、昨年の8月からピアカウンセリング連続公開講座を全8回開催しています。このイベントは、従来のピアカウンセリング連続講座の枠を広げて、障害のない人にも参加して頂けるように内容を変更したものです。実際に障害施設の職員をなさっている方など、ピアカウンセリングの内容に触れた事のない方の参加もあって、充実した勉強や話し合いが続いています。今年度は、残すところ後2回となりました。2月は17日の水曜日、3月は16日の水曜日、いずれも午後1時半から船橋市浜町公民館で開催します。公開講座ですのでどなたでも参加自由です。飛び入り大歓迎ですので、多くの方のご参加をお待ちしています。

出張ピアカン

特別支援学校や障害者施設、時には居宅に至るまで、悩める障害者を訪ね歩いて、話を聞いて解決への道筋を一緒に考える取り組みです。人によっては何度か通ってようやく方向性が見えてくることもあったりして、時間がかかることもありますが、クライアントが元気を取り戻すとこちらにも笑顔になります。

これからも、「気持ちの上での地域の社会資源」としての自負を持ってつづけていきたいと思えます。



仲間と一緒に旅をしよう！！

細田将太

私は2年前からヘルパーさんと一緒に旅をしたいと考えていました。その夢が今年やっと叶いました。最初は、一人でヘルパーさんと一緒に旅をしようと考えてましたが、私の仲間が一緒に行くことになり、私と私の仲間そしてヘルパーさん二人を含め四人で旅に行ってきました。旅行先は、大阪です。仲間と市川駅で待ち合わせをしました。市川駅から東京駅まで電車で行きました。東京駅で駅弁を買ったり、トイレ休憩などをしました。そして、11時発、新幹線で新大阪まで行きました。新幹線の車内では、駅弁を食べたり、しゃべったりしながら2時間30分がたち、新大阪駅に着きました。新大阪駅に着き、まず最初にホテルに行きました。ホテルは、新大阪ワシントンプラザというホテルに泊まりました。ホテルで30分ほど休憩をしてなんばグランド花月に行きました。15時15分には、チケットを窓口で発券をする予定でしたが、30分遅れて開演ギリギリになってしまいました。そこから、2時間45分のお笑いライブを見ました。笑えばなしの2時間45分でした。ライブが終わり、なんばグランド花月でお土産を買ってから道頓堀に向い、夜ご飯を食べました。夜は、大阪らしい食べ物を食べようとしたのですが、1時間半も歩きなかなか店が見つかず、やっと入った店がサイゼリアでした。でも、みんな諦められず、屋台で串カツを食べました。ご飯を食べて23時にホテルに戻り就寝しました。二日目は、なんば周辺の観光をして、12時半の新幹線で東京駅に戻ってきました。家族以外で旅に出るのは初めての経験だったので不安もありましたが、とっても楽しい旅になりました。





おいらとパソコンの因果なつきあい

★アキバ参り

こう見えてもおいらはけっこう器用な性質（たち）で、はるか昔の小学生の頃は工作大好き少年だった。スマートボールに似たコリントゲームとかの工作物やいろんなプラモデルなんかをよく作ったものだ。どんなプラモデルを作ったかという当時のこととて戦闘機や戦艦、戦車などが多かった。零戦、銀河、飛燕、雷電、隼、紫電改、グラマン、ムスタング、スピットファイヤー、メッサーシュミット、B29、大和、山城、長門、陸奥、タイガー、パットン、ロンメルとか・・・。

小学校高学年から中学の頃には車に興味を持ち始め、トヨタ2000GT、ニッサンR380、フェアレディ、ホンダS800、ポルシェ、ジャガー、アストンマーチン、マスタングとか、レーシングカーなどを作っていた。

おいらが秋葉原通いを始めたのは小学校6年の時だった。当時、誠文堂新光社から『子供の科学』という月刊の科学啓蒙雑誌が出ていて、おいらはそれを愛読していた。その雑誌の中に簡単な電子工作のページがあって、その中のいくつかを作ったのだ。鉱石（ゲルマニウム）ラジオ、電子安眠器、1石と2石のトランジスターラジオなどを作ったことを覚えている。

当時おいらは都立E養護学校の寄宿舎に入っていて、週末にだけ帰宅するという生活を送っていた。家でもらえるこづかいをためて十分な額になったら秋葉原に部品を買いに行っていたのだ。自宅近くの駅から秋葉原までは三つ目だった。買いに行く店はだいたい決まっていて、ラジオデパートの中の、おばちゃんがやっている小さなパーツショップだった。何度か通ううちに顔見知りというか常連さんみたいになって、おばちゃんにけっこう親切にもらったものだ。そんな年頃の、しかも体の不自由な子供がパーツを買いに来るのが珍しかったのかもしれない。

トランジスターラジオの場合は、ベーク板、バリコン、ポリウム、抵抗、コンデンサー、トランジスター、スピーカー、あるいはイヤフォン、といった部品をこつこつと買いためていって、全部揃ったら『子供の科学』の綴じ込みの回路図や接続図を見ながらハンダ付けをしていくのだ。1週間に1回、週末しか家に帰らなかったし、ときには帰らない週もあったので、パーツ集めから完成までに数ヶ月かかった。そうしてコツコツと作り上げ、スイッチを入れて実際にスピーカーから音が聞こえてきたときのうれしさ・喜びといったらなかった。大きな音で明瞭に聞こえたのはニッポン放送、FEN、NHKなどで、文化放送、TBSなどは雑音が多くてあまりよく聞こえなかった。しかしいつもそうすんなりといったわけではなく、スイッチを入れてもウンともスンとも言わないときがあった。そういうときはベーク板上のパーツと回路図のにらめっこだ。そうして配線のミスとかハンダ付けの不具合とかを発見して修正し、完成までこぎ着けるのだ。

そう、おいらは当時の多くの少年がそうであったようにラジオ少年だったのだ。中学2年の時に引っ越しをするまでそんな生活が続いた。引っ越してからは興味が移っていったのと交通面でそう簡単に行けなくなったことからアキバ参りは中断した。おいらがふたたびアキバ参りを始めるようになるのは30代半ばからのことになる。

平成27年のQとA

宮尾おさむ

Q 平成27年の年も終わるけれど、宮尾さんにとって今年一番印象が強い出来事は何ですか。

A そうだな。やっぱり自分の老衰ということですね。70代になった頃までは5年後、10年後に自分がどうなっているか、ということに対するイメージのようなものが漠然とだけあったんですよ。ところが80歳を目の前にした頃から、そういうイメージが作れなくなった。そして極端に言うと、今が全てになったんだよね。つまり、現在だけが確かで、過去も未来も確かなものではなくなってしまった。そういうわけで、ひたすら今だけを追っている生活になっていますが、これは老衰の典型と言えるんじゃないかな。

Q 他にはないですか？

A 2001年から家内が飼っていた愛犬が亡くなったことだね。14歳で死んだのだけど、最期の2ヶ月は寝たきり状態でね。動物も人間同様の経過をたどって死を迎えるんだなと知りました。

Q そうですか。あなたぐらいの歳になると、知り合いの方も亡くなることもあるんじゃないですか。

A 最近では毎年ですね。一昨年が三沢了さんで71歳、昨年が楠敏雄さんで69歳でしたが、今年は村松七郎さんという船橋市の方が亡くなりました。90何ん歳というご長命だったけれども、この10年ぐらいはほとんど会ったことがなかったんですね。そういう意味では三沢さんや楠さんも、私にとっては大事な友人だと思っていたけれど、そのわりには親しかったとは言えないところがあったね。

Q 後から振り返ると、色々あるのが人間の人生ということでしょうか。

A いや。後から振り返らなくても、そのときどきすでに色々あるんだよね。人間っていうやつは、それをやり過ぎしていたり、知らんふりをしながら、どこかで自分が何をしているか、わかっているんだな。だけどズルいから、気づかないポーズを作っているんだ。ズルいのが人の本性かも知れないね。

Q そんなものですかね。

A うん。そんなものなんだよ。

Q それで今は何かやりたいことはありますか？

A うん。実に不思議なことだけど、最近また何かを書きたくなってね。色々小説風のイメージが湧いてきたり、タイトルまで浮かんだりしているんだ。

Q へえ。なんていう題ですか。

A 「もう死ぬだけの私から」というタイトルだね。自伝的というか、生まれてから今日までの自分のたどった一生について、物語的に書いてみたいと思ったんだけど、それだけのエネルギーがないとダメだよな。

Q エネルギーも必要だけれど、それを成り立たせるテーマや論理が要るんじゃないですか。

A そうだな。自分を正当化するような危険もあるからね。そういう自分との妥協をなくすにはどんな工夫が必要か、そこから変えなきゃいけないと思って、色々頭の中でやってんだけどね。何かありますか？

Q やっぱりフィクションが必要でしょう。

A そうだよな。しかし、虚偽ではいけない。フィクションというのは真実の追及のために必要なんだよな。この年末と新年は、それを考えて暮らすことになりました。

▽以上を書いたところで新年になり、松の内も終わるという日に水爆実験のニュースが耳に入った。コワイ国である。平和も文明も滅ぼそうというのか。

2016.1.6. 記

AKB48 ファンが語る

細田将太

みなさん AKB48 を知っていますか？よく言われることがあります。AKB って 48 人 なんですよと言われますが、AKB は、秋葉原の略で 48 は、AKB の事務所の社長さんの名前をとったものです。自分が AKB にはまり始めたのは、3 年前の冬でした。ちょうど、卒業のシーズンで、学校の寄宿舎で AKB48 の曲で「桜の木になろう」を歌うことになり、覚えなくてはいけなかったのに、暇があればその曲をずっと聞いていました。ある時、AKB48 の番組を見ていたら、渡辺麻友という子にはまってしまいました。渡辺麻友は、顔や性格はもちろいいのですが、一番はまった理由は、おちゃめなところ。テレビで見るとなんの変わりもないアイドルですが、握手会やコンサートを おちゃめさが見てとてもかわいいなと思いました。AKB は、会いに行けるアイドルをコンセプトに活動をしています。渡辺麻友は、最近体調を崩すことが多くて握手会もスタートが少し遅れたりすることもあります。それでも、来てくれるファンを大事にしてくれます。とっても、心が惹かれる子です。他にもいっぱい AKB グループはいます。AKB グループ全体は、300 人以上いるグループです。AKB は、シングルが出るたびに握手会があります。AKB48 は、劇場に行かなくても CD だけを買えば、握手会には参加ができるので会えることができます。みなさんも、テレビとかで見てこのメンバーと会いたいと思ったら、まず AKB のシングル CD を買ってみてください。自分も、AKB のファンになってまだ、3 年と浅いですが、一緒にメンバーを追い続けてみませんか？

SUPER ☆ GIRLS への赤い情熱

小林健一

僕が SUPER ☆ GIRLS（スパガ）に目覚めて 3 年になります。きっかけはラジオから流れてきた「プリプリ・サマーキッス」という曲を聴いてからです。弾ける様な歌声に魅了され、コンサートを見に行きました。その姿は全力で歌い踊り、スパガと会場が一体となりそれは素晴らしいものでした。スパガのコンセプトは、みんなで育てるアイドルです。僕の力は微力でも彼女たちを育てる一翼になろうと決めました。ライブはイベントスならではの音にこだわっているし、本人たちも言っているようにビジュアルは最高です。

僕の推しメンは渡邊ひかるです。ひかるの武器はなんといっても類まれなダンスとファンを思う心です。ブログを見ると素のひかるが見れて面白いです。

最近、ひかるはセットリストやダンス指導を考えたりしています。後輩の面倒を見るのも上手です。バラエティーでの活躍は目覚ましいものがあります。グルメレポでゲテモノ食いシーンや新宿駅で一人ダンスなどを見ても頑張っているのが分かります。握手会では最高に緊張して何も言えなかったけど、手紙を渡すことができました。温かく優しく包む手のぬくもりは最高でした。

僕にとっての渡邊ひかるは唯一無二のアイドルです。一日たりとも忘れたことはありません。天使のような何物にも代えがたいアイドルです。

WAVE のうごき

9月
16日（水） ピア・カウンセリング連続公開講座

10月
4日（日） 誠光園オータムフェスタ
18日（日） 障害福祉団体連絡協議会
21日（水） ピア・カウンセリング連続公開講座
23日（金） 船橋福祉フェスティバル

11月
10日（火） バス旅行
18日（水） ピア・カウンセリング連続公開講座
21日（土） 二次障害講演会

12月
5日（土） 作品展
16日（水） ピア・カウンセリング連続公開講座
17日（木） fas-net 例会
25日（金） 納会（ランチミーティング）

1月
12日（火） 自立支援協議会地域移行・福祉サービス部会
20日（水） ピア・カウンセリング連続公開講座
28日（木） 自立支援協議会



会費納入のお願い

今年度の会費をまだお支払いいただいていない方、同封の振込用紙をご利用の上、お早めにご納入下さいますようお願いいたします。

年会費は、正会員が3,000円、賛助会員が5,000円、団体が10,000円となっております。

同封の振替用紙について

この機関紙には全員の方に郵便振替用紙を同封させていただきました。これは会費、介助料、カンパなどを送っていただく際に、便利のように同封したものです。

なお、納入状況など、ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

編集後記

新年号の発行が大変遅くなり申し訳ありません。諸般の事情が重複し、こんなに遅くなってしまいました。が、しかし、今号は若い書き手が活躍しています。今まで、センターの機関紙は堅苦しい内容のものや報告が多くてつまらない、面白くない、といった声がネットを中心にアップされているとかいないとか。今後、こういう若者たちを発掘し、育てていくのは古い人の責務であり、彼らの活躍に大いに期待したいものです。やはり若い人の文章は春を感じさせます。ちょっと小粋な英語を使わせてもらおうと、「センテンス スプリング！ ありがとう！」といったところですか。

T 2

カンパのお礼

前号以降、以下の皆様より温かいカンパをいただきました。

厚くお礼申し上げます。（順不同）

花島敏郎様 田尾幸三様

御郷昌亮様

発行所 東京都世田谷区祖師谷3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷102号室
障害者団体定期刊行物協会

頒価 100円